

日本アンダーライティング協会 第69回教育講習会

長寿リスクと割増年金テーマに

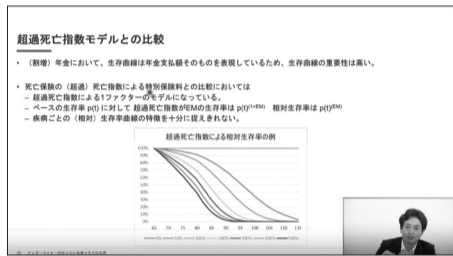
日本アンダーライティング協会は9月29日、第69回教育講習会をオンラインで開催した。講師に



酒 匂 氏

「アンダーライターの知らない長寿リスクの世界(アクチュアリーの見点からみる長寿リスクと割増年金)」と題し、長寿リスクと割増年金をテ

マに2部構成で解説した。なお、本講演はライブ配信のほか、アーカイブ配信も行われた。



別に関する死亡率と、商品別による長寿リスクの考え方を解説した。

長寿リスクと割増年金について解説

次に海外、特にイギリスを例に長寿リスクの移転の活発化について説明した。英国においては2011年4月までは退職積立額の75%を終身年金購入に充てる

ことが税制により強制されており、それにより大規模の長寿リスクが発生し、長

年金額は通常の人と同額であるという不利な状況となった。

このような背景から、割増年金・弱者年金の発展につながった。当初はアンダーライター(UW)による個別の引受査定を行っていたが、時間・コストがかなりビジネスとすることは難しい面もあり、簡易な商品(少数の質問・単純な引受判定)も開発されたが、年金額の増加は緩やかでト

レドオフが発生した。その解決手段として、自動査定を進化させることとなった。

方法としては要介護度等のレベルを決め、それに合わせて年金の割増額を決める等の商品開発を行った。現在では(ELE: Estimated Life Expectancy, と MPLE: Maximum Probable Life Expectancy)の2ファクターを使い自動査定システムで計算して個々人の生存曲線を求めるといったモデルを採用している。告知結果を2ファクターに落とし込み、これにより柔軟性と簡易性を確保し、トレードオフの改善・解決を試みている。

2ファクターを具体的に算出する自動査定システムが重要な役割を果たすこととなるが、個々の健康状態に関して十分なデータがないこともあり、最後に保険医学の知識を持つUWとテ

クチュアリーとで共同して構築した自動査定システムが悪化する場合は長寿リスクとする。

「長寿リスク」を理解しておく必要がある。

(注) 死亡率が上昇し

保険会社の将来収支が悪化する場合は死亡リス

ク、死亡率が低下すると

悪化する場合は長寿リス

クとする。

(文責: 第一生命契約

医務部・芥川幸子)